第７回平和意識調査について

広島平和教育研究所第１部門では，過去６回県内の小中学校の児童生徒を対象に「平和意識調査」を行い，戦争・原爆体験の認識を把握し，平和教育の課題を明らかにしてきました。

今回の第７回調査は，より詳細に専門的に調査するために，第３部門（国際交流）と共同で調査（質問）項目の作成及び分析作業を行いました。

今回（2011 年）の調査と前回（1996 年）の調査の間には，１９９８年の文部省是正指導（以下、「是正指導」という）が行われており，今回の調査で，「是正指導」の結果，被爆県ヒロシマの児童生徒の原爆に関する知識が低下していることが明らかになりました。

多くの学校でカリキュラムや推進態勢がなくなったことなどにより系統的な学習ができにくくなっていることが，影響しているものと考えられます。

「平和意識調査のまとめ」の作業が遅れた理由は，2011 年３月 11 日の東京電力福島第一原子力発電所の事故をきっかけに，『原発問題をどう教えるか』の指導案作成に取りかかり，完成までに約３年を費やしたからです。そのため，平和意識調査の分析作業に取りかかったのが，2014 年度末となり，「平和意識調査のまとめ」が完成するまでに１年以上かかってしまいました。

今後，平和教育を再構築していくために，「平和意識調査のまとめ」の「14．（２）今後の課題」で掲げた課題を踏まえて取り組んでいくことが必要です。

２０１６年3月３１日

第７回平和意識調査のまとめ

広島平和教育研究所（第１・３研究部門）

広島平和教育研究所（以下、「平研」という）では，過去６回県内の小中学校の児童生徒を対象に平和意識調査を行ってきた。時代の変化や時間の経過等の中で，戦争・原爆体験の認識が変化していくものと考えられ，継続的に調査を行うことで平和教育の課題を明らかにし，戦争・原爆体験を継承していく必要がある。

今回（第７回）の平和意識調査は，2011 年度に行ったもので，前回（1996 年）の第 6 回平和意識調査と比較すると，被爆県ヒロシマの児童生徒の原爆に関する知識（１．原爆投下についての質問項目）が低下していることが明らかになった。

前回と今回の調査の間には，1998 年の文部省是正指導（以下、「是正指導」という）が行われており，平研では，平和教育にどのような影響を与えたか，実態を調査するために平和教育実態調査（2004 年度：県内公立小学校 218 校，中学校 86 校回答。以下、「実態調査」という）を実施した。「平和教育に関する年間カリキュラムは作られているか」の質問に対しては，1997 年度実態調査では 95％の学校で作成されていたが，2004 年度実態調査では 23.7％に激減している。また，平和教育推進態勢について「人権・平和教育推進委員会や担当者が中心となり進めている」との回答は，1997 年度実態調査では 85.4％だったのが，2004 年度実態調査では 21.7％に激減しており，多くの学校でカリキュラムや推進態勢がなくなったことなどにより系統的な学習ができにくくなっていることが，原爆に関する知識の低下に影響しているものと考えられる。

平和教育の危機的状況の声が上がるなか，今回と前回の調査を比較することで，平和教育の問題点と課題が明確になると考えた。

今回の平和意識調査は，2011 年度，広島県内の公立小学校 13 校，中学校 11 校で実施，実施人数は小学校５～６年生 228 人，中学校１～３年生 327 人を対象とした。

※平和教育実態調査については、広島平和教育研究所 HP（http://www.hipe.jp/）に掲載中。

１．原爆投下についての質問項目について

原爆投下については，ほとんどの質問項目で正答ポイントが前回調査より低くなっている。「是正指導」以前には，全学年で系統的に原爆について学習してきた。したがって，教科書に記述されていなくても，全学年で少しずつ学習してきた。しかし，「是正指導」により，系統的な平和教育がなされなくなったことで，現在，これらを指導するのは，小学校 6 年生の社会科で少し触れる程度である。「是正指導」の影響が，特に顕著に現れていると考えられるのが，次の①である。

①　「世界で初めて原子爆弾をつくった国はどこか知っていますか。」

第 6 回調査（1996 年）では「知っている」の正答率が 72.7％，今回は 46.3％である。原爆について，被害だけを教え，系統的な指導ができていないのではないだろうか。原爆投下目的や投下した国，投下された国など当時の世界情勢について，教職員の学習不足で子どもたちに教えきれていない部分があるのではないだろうか。

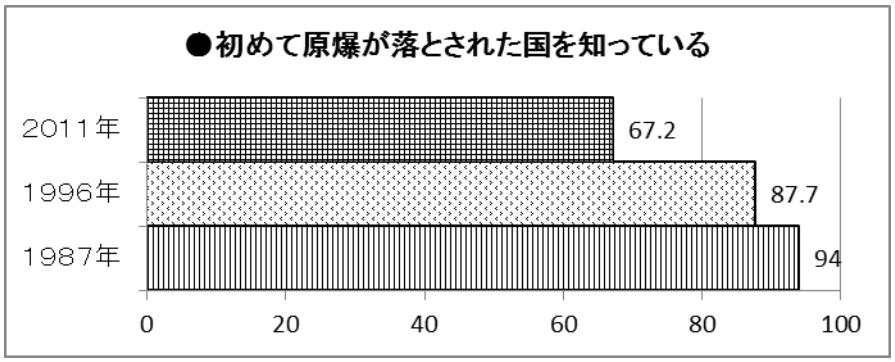
② 「その原子爆弾を落とした国はどこか知っていますか。」

第 6 回調査（1996 年）では「知っている」が 81.4%，今回は 70.3%である。

③ 「世界で初めて戦争で原子爆弾が落とされた都市はどこか知っていますか。」

第 6 回調査（1996 年）では「知っている」が 86.6%，今回は 73.7%である。

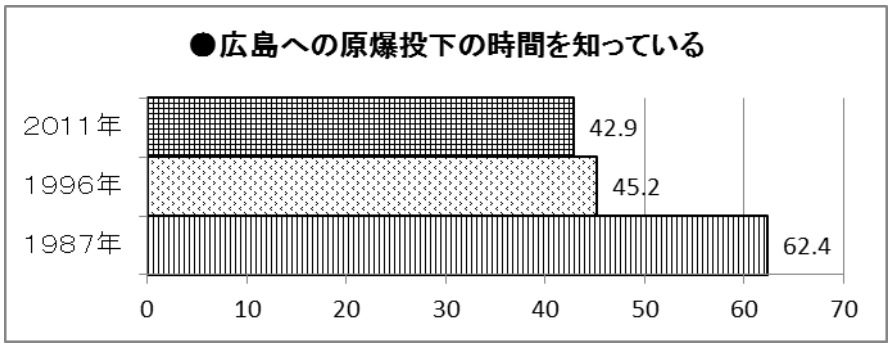
④ 「世界で初めて戦争で原子爆弾が落とされた国はどこか知っていますか。」



第 5 回調査（1987 年）までは「知っている」の正答率が 90%台であった。前回第 6 回調査は 87.7%，今回は 67.2%である。

広島に落とされたことは知っているが，改めて「初めて落とされた国」と聞かれ，戸惑ったのではないだろうか。また，原爆投下が，第二次世界大戦や歴史の中に位置づけて教えられなくなったので，「人類史上初めて」という重みが，子どもたちに伝わっていないのではないか。広島で起きた出来事を日本史や世界史の中にしっかりと位置付けて教えなくてはならない。

⑤ 「それは，いつのことでしたか。」



広島への原爆投下の時間（年月日時分）について，第 6 回調査（1996 年）が正答率 45.2%で，今回が 42.3%とほぼ同じ結果であるが，第 5 回調査（1987 年）の 62.4%と比較すると，約 20 ポイント減少している。今回の調査で，原爆投下日時である 8 月 6 日 8 時 15 分は覚えているが，昭和 20 年や 1945 年が回答されていない。第二次世界大戦や歴史の中に原爆投下が位置づいていない。また，発達段階に応じた系統的な平和教育を受ける機会が減ったことが減少の原因と考えられる。

⑥ 「その都市の原子爆弾による死者は，その年の終わりまでに何人ぐらいになったと思いますか。」

「10 万人」の回答が，第 6 回調査（1996 年）が 13.6%，「15 万人」の回答が，今回が約 15%である。「20 万人」が第 6 回調査（1996 年）が 35.4%，今回が約 27%である。

※第 6 回調査（1996 年）までは，「15 万人」という回答欄がなかったため，今回新たに作った。

※平和記念資料館では 14 万人プラスマイナス 1 万人である。原爆ドームの石碑には 20 万人とある。

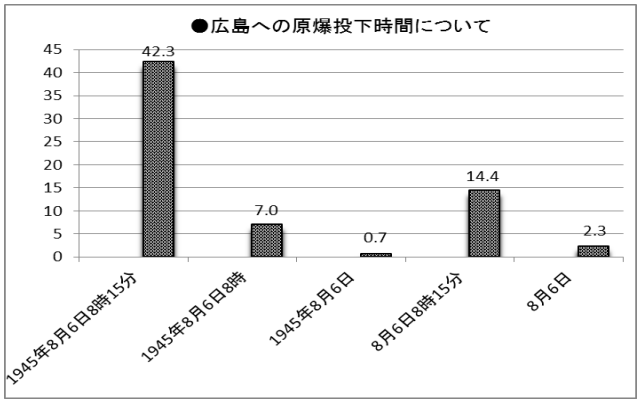
⑦ 「世界で２番目に原子爆弾が落とされた都市はどこか知っていますか。」

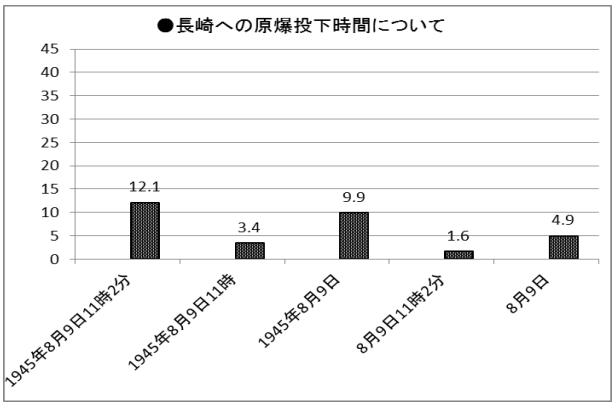
第 6 回調査（1996 年）では「知っている」が 81.5%，今回は 68.3%である。

⑧ 「それはいつのことでしたか。」

第６回調査では調査していない。長崎への原爆投下の時間（年月日時分）の正答が 12.1％であった。長崎に落とされた年月日のみ正答したのは 9.9％であった。また，8 月 9 日があるものの年時分が回答できていないものを含めても 31.9％であった。広島はすべて正答（年月日時分）が 42.3％から考えると，広島の原爆については教えているが，長崎の原爆については教えきれていない。

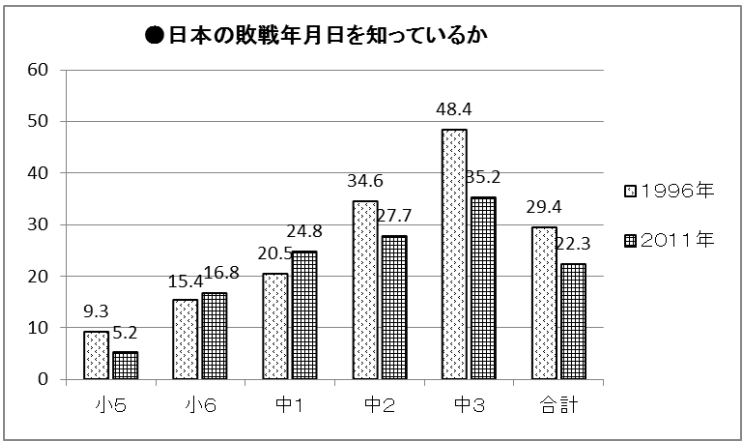
※質問項目の①②③④⑦の正答率は，「知っている」を選択し，国名や都市名を正答したものである。





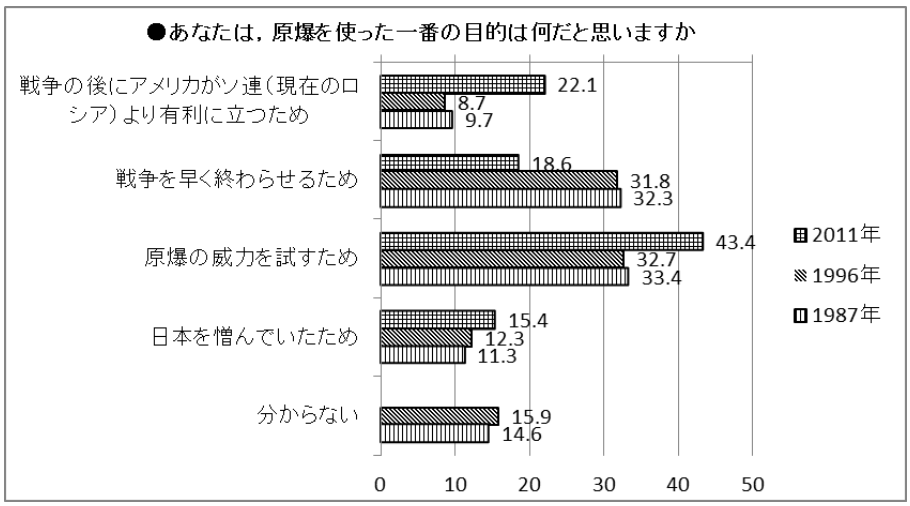
２. 日本の敗戦の年月日について

日本の敗戦の年月日の正答は，全体で前回は 29.4％，今回は 22.3％であった。前回の正答率より約７ポイント低下している。また，原爆投下の年月日よりも日本の敗戦の年月日のほうがパーセントが低くなっている。これは戦争の歴史について教科書の記述量が減少してきていることや，戦争や敗戦について学校や学級で教材化する機会が減ってきていることが原因の一つとして考えられる。



３．原爆投下目的について

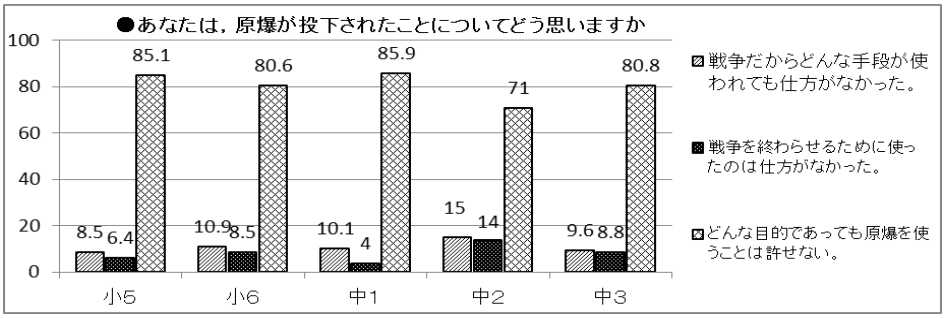
前回 1996 年と比較すると，従来アメリカ政府が主張していた「戦争を早く終わらせるため」が約 10 ポイント以上減少し，「戦争の後にアメリカがソ連（現在のロシア）より有利に立つため」や「原爆の威力を試すため」がそれぞれ約 10 ポイント増えている。



これは，原爆投下目的の研究が進んでいることや意識的に教えられてきていることの反映ではないだろうか。

４．原爆が投下されたことについてどう感じたか

どの学年でも 70～80％前後の児童生徒が「どんな目的であっても原爆を使うことは許せない」と回答している。

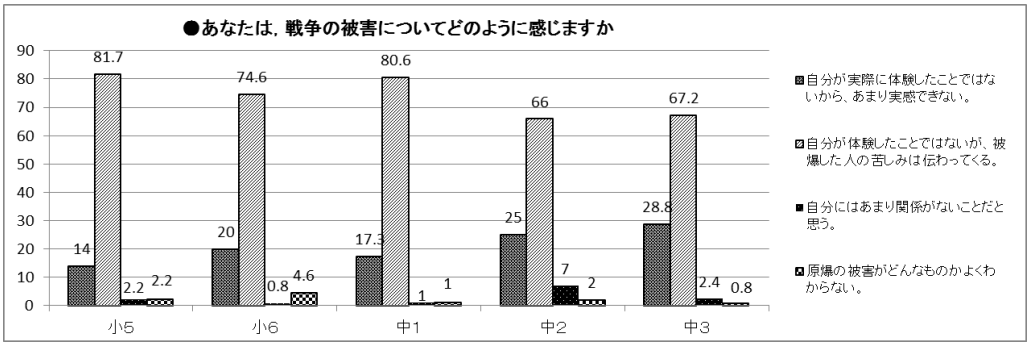


今回調査と前回調査では，選択肢が異なり，前回調査にあった「よくわからない」という選択肢はなかったため厳密な比較はできないが，原爆による無差別大量殺戮の非人道性，残虐性が子どもたちにも伝わっているものと思われる。

しかし，前回調査の「戦争だからしかたがない」，今回調査の「戦争だからどんな手段を使われても仕方がなかった」を選択している子どもが同程度（10％弱）存在し続けていることに注意が必要だろう。

５．原爆被害や被爆者の苦しみについてどう感じたか

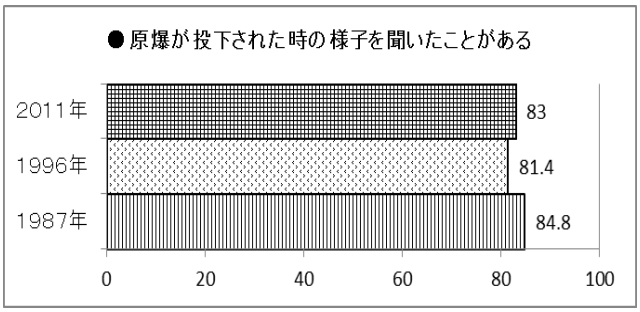
原爆の被害や被爆者の苦しみについて，小学生は「被爆した人の苦しみが伝わってくる」が約 78％で，共感している小学生が多いことがわかる。



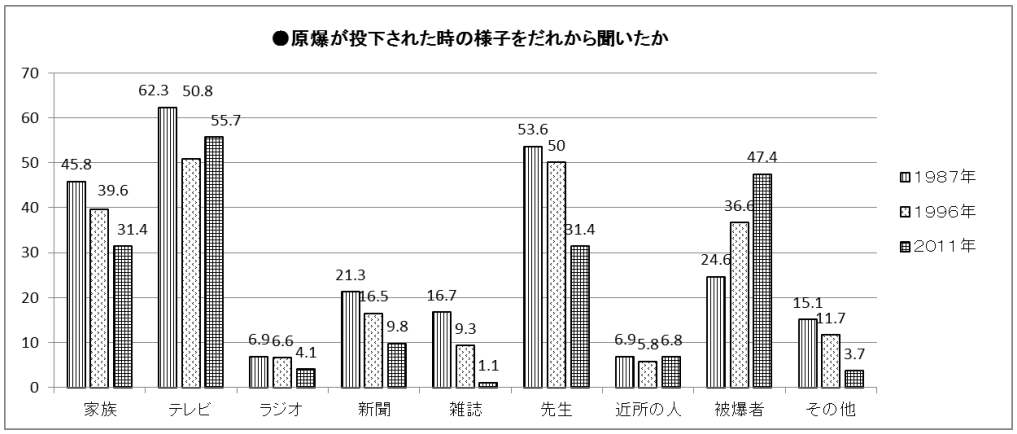
小５～中１年までは約 80％であるが，中２～３年では 70％弱になっている。中１が高いのは小学校での学習の印象がまだ強く残っているからではないだろうか。また，中２～３年では，「被爆した人の苦しみは伝わってくる」が減少し，「あまり実感できない」が増加している。

６．原子爆弾が投下された時の様子について

①　「原爆が投下された時の様子を聞いたことがありますか」については，3 回とも大きな変化はない。



② 「原爆が投下された時の様子を誰から聞いたか」については，家族や先生から原爆が投下された時の様子を聞く機会が減っている。先生から聞いたのは，前回は 50.0％であったが，今回は 31.4％に激減していた。被爆教職員が現場から去り，若い世代の教職員が増えてきており，日常的に平和についての話題を語ることが減っているからであろう。また，戦争や原爆に関するマスコミ報道が減ってきていることも背景として考えられる。



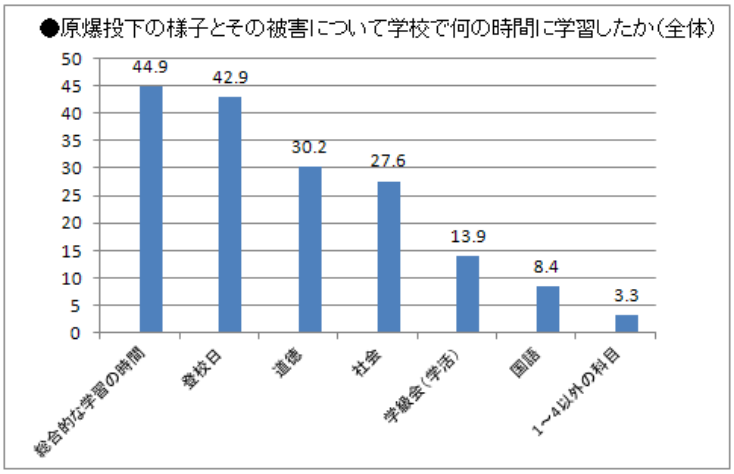
一方，教育方法の多様化により，学校ではゲストティーチャー制度を使えるようになってきている。広島市では，被爆体験を校内で聞くための予算化がなされ，被爆者から体験を学校で聞く機会が増えてきているのであろう。被爆者の高齢化が進んでおり，被爆体験の継承の課題について教育方法を模索して積極的に取り組むことが望まれる。

③ 「広島市の平和記念資料館を見学したことがあるか」については，第 6 回調査（1996 年）は 86.8％，今回は 82.3％が見学したことがあると答えている。1998 年の「是正指導」で平和教育が学校においてできなくなり，多くの学校が平和公園へ社会見学に行くことを自粛してきた。その後，平和公園，平和記念資料館へ社会見学に行く学校も増えてきているが，未だに見学していない学校もある。中学校では，平和記念資料館への社会見学がほとんどない。したがって，小学校で平和記念資料館を見学しなかった子どもたちは，原爆被害を最も学習できる平和記念資料館を見学せずに卒業することとなる。

④ 「原爆慰霊碑を訪ねたことがありますか」については，第 6 回調査（1996 年）は 77.2％，今回は 73％が訪れたことがあると答えている。資料館見学が 4 ポイント減ったのと同じように，4 ポイント減っている。平和記念資料館へ見学に行った学校数が減ったものと考えられる。

7．原爆投下の様子とその被害についての指導時間について

原爆投下についての指導時間の質問項目では，前回一番多かった「道徳」での指導時間が 44.6％から 30.2％へ減少した。一方，2002 年度から新しく本格実施された「総合的な学習の時間」での指導が 44.9％とあり，一番大きな指導時間を占めた。これは，「総合的な学習の時間」でとりあげる学習内容にある「国際理解」・「環境」・「地域課題」が平和の問題と密接につながることが要因であると思われる。この

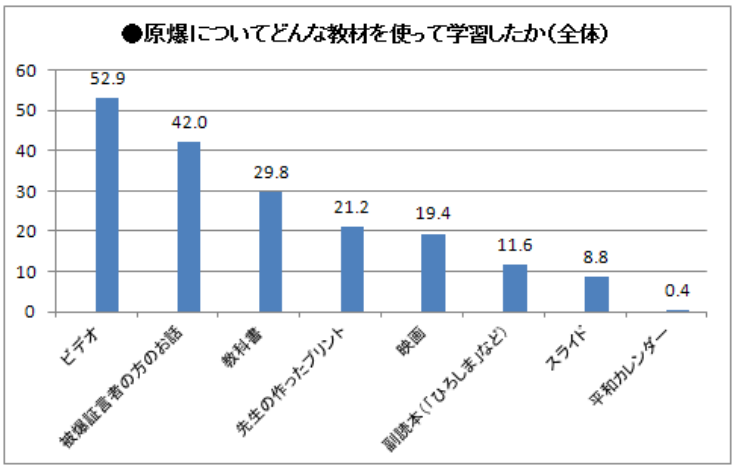


時間では特に，子ども自ら主体的に課題解決していく学習が進められるので，平和教育になじみやすいということも考えられる。

二番目に多いのは登校日である。８月６日，８日（福山空襲）当日やその前後の登校日などに平和集会や学活などで被爆者の話を聞いたり，ビデオ鑑賞などを行ったりしている学校が多いようだ。８月の原爆投下や空襲があった日を節目に，平和の大切さや命の尊さについて考えさせるよい時期と捉えているからであろう。

社会や国語だけでなく，それ以外の教科・領域の中においても平和教育を位置づけて取り組んでいくことが必要であろう。

８．教材の活用について



被爆者が年々減少していくなかで，子どもたちが身近な祖父母などから直接，被爆体験や空襲体験，戦争体験を聞く機会が少なくなってきている。そのため，学校の平和学習の中に，体験者の話を聞く機会を設けることが重要になってきている。前回の調査では，学校の平和学習の場で，体験者の話を聞く機会はあまりなかったが，今回の調査では，42％もあり，ビデオ教材の52.9％に次ぐ多さであった。地域に暮らしておられる体験者の方も，今まで語ってこられなかったことを今こそ語り伝えようという思いになられていることもあり，学校での証言に協力的になってくださっている。体験者の方々の話は，次の世代に伝えていくべき貴重な証言である。将来の平和教材としても大切に継承していきたい。

前回，一番多かった映画が 58％から 19.4％へと大きく減少したかわりに，今回の調査で一番多かったのがビデオ教材の 52.9％であった。新しい平和の映画が少なくなったことや，映画のデジタル化で映画フィルムでの鑑賞から DVD ビデオでの鑑賞に変わったこと，特設の時間での鑑賞が減ったことなどが考えられる。その代わりに，各方面で制作されたドキュメンタリーの映像などで直接的に学ぶ機会を設けるようになってきている。それらを教材として，テーマに沿って考えを深める学習展開が増えてきていることとの関連がみられる。

年々増えている教材は，教科書であり，今回は 29.8％になっていた。教科書での取り上げ方が，視覚的になってきたこととともに，教科との関連を意識した取り組みの結果ともいえる。

スライドや，副読本，平和カレンダーの利用は，利用が年々減っている。スライドは，どの教科の学習でもビデオやパソコン（パワーポイントなどの使用）にとって代わってきており，また機器そのものも手元になくなってきている。このように視聴覚機器が近年，大きく変化したことにより，学習場面での活用という観点で前回と単純に比較することは難しかった。

副読本や平和カレンダーは，「是正指導」以降，教材として活用することが困難になってきている。特に，「平和カレンダー」は，教室に掲示することすら制限されるようになった。平和教材を掲載していた「夏休み帳」が廃刊に追い込まれたことと相まって，子どもたちの周りから「平和」についてふれる機会が減ってきたと考えられる。

活用された教材の中で，子どもたちの印象に強く残っているものは，視覚的な教材であるビデオ鑑賞や体験者から直接的に話を聞くことであった。映像からは，想像以上の多くの情報を得ることができるからであろう。また，目の前の体験者の方から話を聞くことは，より実感をともなって被爆の追体験をすることとなり，子どもたちの感性に強く訴えるものがあるからであろう。

９．平和をテーマとした歌や本・まんがに関する質問項目について

①　「あなたは以下の本やまんがを読んだことがありますか。」

これは，原爆関連の本やまんがとともに，戦争一般についての本やまんがを読んでいるか聞く設問である。

原爆関連の小説「原爆の子（長田新)」「原爆詩集（峠三吉)」については，どちらも 10%未満でほとんど読まれていない。原爆関連のまんが「はだしのゲン」については，60.9%が読んでいる。「おこりじぞう」は小学校低学年からも読めるため 27.4%である。「夕凪の街桜の国」については，新しいまんがで 9.0%であった。

戦争一般の「火垂るの墓」「かわいそうなぞう」については，ともに約 36%でほぼ同じ状況であった。「火垂るの墓」については，アニメ絵本や小説など紹介されているためではないだろうか。

②　「あなたは以下の歌の中に，聞いたことがあったり，歌えるものがあったりしますか。」

前回の調査以降，新しく生まれた歌があり，平和をテーマとした歌は年々増えてきている。平和学習の一環として生まれた歌もあり，平和学習が多様化したことがうかがえる。しかし，子どもたちが実際に知っていたり，歌えたりする歌は，学校により，大きく異なっていることが分かった。「是正指導」以降，平和集会等の行事が行いにくくなったり，シラバスにない歌を指導することが困難になったりしてきていることが背景にある。このような状況の中で，教職員が主体的に様々な平和の歌を指導するには，かなりのエネルギーが要求されるため学校による格差が生まれてきたといえる。

平和学習が知識だけにとどまらず，子どもたちの心情を培うものにするためには，質の高い感性をゆさぶる平和教材が求められる。そのためにも原水爆禁止運動の中から生まれた「原爆を許すまじ」や「青い空は」・「折り鶴」，広島の子どもが平和への思いを託した「似の島」や「アオギリのうた」などの平和の歌をこれからも歌い継ぎ，次世代につなげていきたい。

10. 世界の核被害者問題や反核平和運動について

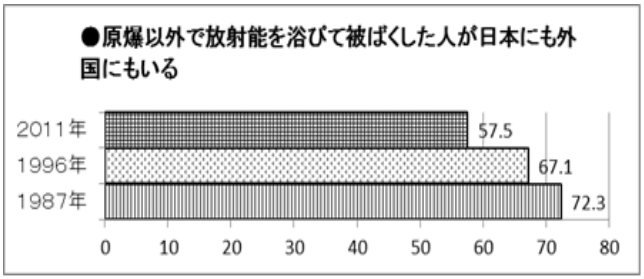
①　「日本で原爆の被害を受けた人の中には，いま日本以外の国に住んでいる人がいる」

在外被爆者について 58.0%の正答があった。これは在外被爆者が日本在住の被爆者と同等の援護を求める運動を進めていることと無関係ではないだろう。広島においても在外被爆者と支援団体が裁判闘争を行っており，広島のマスコミで報じられる機会が多いことが要因の一つとして考えられる。

②　「日本で原爆の被害を受けた人の中には，日本人以外の人が何万人もいる」

多くの外国人が原爆の被害を受けたことについて 45.8%の正答があった。これも①と同様の理由からではないかと推察される。

③　「原爆以外で放射線を浴びて被ばくした人が日本にも外国にもいることを知っている」

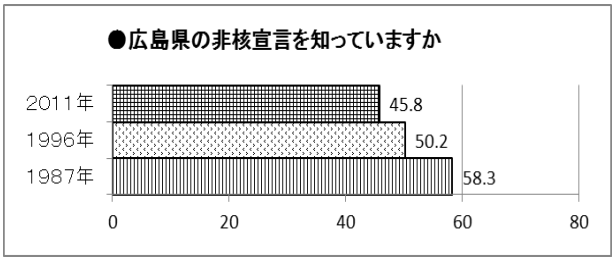


前回は 67.1%であったが，今回は 57.5%に減少した。核被害を受けた「ヒバクシャ」に対する教職員の認識がじゅうぶんでないため，原発事故や核実験の被害者（被ばく者）の教材化が，有効になされていないものと考えられる。

1987 年の数値が高いのは，1980 年代の世界的な反核運動の高まり，チェルノブイリ原発事故とそれを報道するメディアの影響が考えられる。教職員の意識も当時は高かったと考えられる。

※前回調査は中学生対象で，「ヒバクシャ」の言葉を使っている。

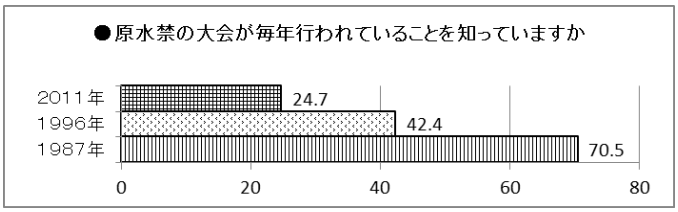
④　「広島県は非核宣言をしている」



前回（中学生対象）は 50.2％であったが，今回は 67.9％になった。

前回の質問項目は「広島県の非核宣言を知っているか」で，今回は「広島県は非核宣言をしている」となっていて，質問項目が若干異なっており，前回は非核宣言の内容を含めて知っているかと捉えて答えているために正答率が低かったものと考えられる。今回は非核宣言の内容を知っていなくても回答できるので正答率が高くなったものと考えられる。

⑤　「広島では原水爆禁止の世界大会が毎年行われていることを知っている」



「知っている」が大きく減少して，前回（中学生対象）の 42.4％から今回は 24.7％になった。

教科書に「第１回原水爆禁止世界大会が開かれた」ことの記述はあるが，教材として深く掘り下げた指導はあまりされていないのではないか。

教職員自身が，原水禁大会に参加することのみならず，メディアを通じて大会に関連することを見聞きすることも少なくなってきている。

また，メディアで原水禁大会の取り上げ方が年々少なくなってきていることも影響しているのではないか。

⑥　核被害について

チェルノブイリ原発事故について知っているのは、全体で 34.2％であった。2011 年に調査が行われた時期が東電福島第一原発事故後であり，それに関連してチェルノブイリ原発事故がマスコミで取り上げられることが多かったことと無関係ではないだろう。

第五福竜丸については全体では 19.5％で，中学校３年生では 54.4％であった。中学校３年生で回答率が高くなるのは，教科書にも記述され，歴史の授業で学習をしているからであろう。

※10. の①～⑤と 11. の①②，12. の①は「事実として正しいもの全てに○をつける」，10. の⑥と 11. の③④，12. の②は「聞いたことがあるもの全てに○をつける」ようになっている。

11. 戦争に関する知識について

①　軍都廣島について

「広島県には，第二次世界大戦に負けるまでたくさんの兵器工場や軍事基地があった」の質問項目は，軍都廣島についての設問で，前回の 25.6％から 66.8％に上がっている。

※前回調査では「日清戦争から敗戦まで，広島は軍事都市だったことを知っているか」という質問項目。

②　日本の植民地支配について

「日本は，第二次世界大戦に負けるまで朝鮮半島や台湾を植民地にしていた」の質問項目では，前回の 48.2％から 52.1％に上がっている。小学校５年生では低いが，歴史の授業で学習するにつれ正答率が上がっているといえる。

③　侵略の事実について

最も高かったのは南京事件の 40.5%でほぼ前回と同様であった。中学校３年生では 68.8%に達している。こうした高い認識は，教科書に記述があり，授業の中で触れる機会があるからではないだろうか。一方，平頂山事件や「従軍慰安婦」（前回調査では「軍隊慰安婦」）についての回答が非常に少ないのは，教科書にも記述がなく，ほとんど認知されていないという結果であった。大久野毒ガス工場についての回答は 15.3%と低いものであった。これは「是正指導」以降，大久野島毒ガス工場に関わる学習の機会が少なくなってきていることによるものではないだろうか。

④　強制連行について

「強制連行の言葉を聞いたことがある」との回答が 27.7%で，学年を追って認識度が高くなっている。教科書では「強制連行」という言葉を使わずに表現されており，あまり取り上げられない問題だけに，回答した学校での取り組みによるものかもしれない。

12. 核問題に関する知識について

①　**「世界には核兵器を持つ国が５つ以上ある」**という質問項目（新しい質問項目で前回はなかった）について，全体で 68.3%の正答があった。これは学年を問わず高い正答であった。小６～中２までは約 70%であるが，中３年では約 58%と低下しており，学年によって正答率にバラツキがある。

②　核兵器不拡散条約（ＮＰＴ）について

核兵器不拡散条約については全体で 24.9%，中学校３年生では 30.4%であった。中学校３年生で回答率が高くなるのは，10.の⑥の第五福竜丸と同様の理由であろう。

③　**「核兵器が実際に使われる可能性はあると思いますか。」**

「可能性はとても高い」と「可能性は十分ある」が全体で 62.5%あり，小学生より中学生のほうが使われる可能性が高いと考えている。

学年が上がるに連れ，社会情勢への関心も高まり，メディアによる「朝鮮民主主義人民共和国の核実験やミサイル発射」の報道に接する機会も増えるものと考えられる。

核問題については，イスラエルをはじめインド・パキスタンなど他の核保有国についてはほとんど報道されることがない。まず教職員が核拡散の現状など核問題についてトータルに認識を深め，現在の核状況を理解させ，核廃絶について考えさせていく必要がある。

13. 意識を問う質問項目について

（１）現状認識について

①　「世界はいま平和だと思いますか。」

「平和だと思う」が全体で 19.5%である。「平和だと思わない」が全体で 80.5%であり，ニュースなどで世界には平和を脅かす様々な問題があることを知っているからであろう。

学年が上がるにつれ，学習を深めるなかで，世界には平和を脅かす様々な問題があることを理解するようになったためにポイントが低くなっているのであろう。

②　「日本は今，平和だと思いますか。」

「平和だと思う」が全体で 52.1%であり，①の項目に比べ，ポイントが高い。日本が「戦争がない状態」＝「平和」と捉えているからではないだろうか。

（２）憲法９条と日本の平和主義について

日本国憲法第９条については，小学校６年の３学期に学習し，中学校では３年生の１学期に学習する。学年が上がるに連れてその認識が高まるのは当然であるが，その割合は中学校３年で 55.2％程度にとどまっている。

「将来日本と他国との間で戦争が起こるかどうか」については 66.5％の子どもたちが起こらないと思っている。また，もし戦争が始まったら 75.3％の子どもたちがどんな戦争でも反対している。さらに，日本に軍備が必要かどうかについては，65.9％の子どもたちがいらないと思っている。そのおもな理由は，「戦争はいけないことだと思う」60.1％，「かえって戦争の原因になる」56.8％である。自由記述の理由をみると，「日本で戦争は起きてほしくないし，ずっと平和でいたいから」「日本はもう戦争がどれだけひどいことかわかっているから」「軍備がいらない世界にしていかないといけないと思うから」など，先の戦争の悲惨さを学んだ上でこれからは二度と戦争をしたくないという思いが伝わってくる。ただし，「平和憲法に反するから」という理由は，28.7％にとどまっている。つまり，軍備を持たず，戦争をしない理由は憲法第９条を守る不断の努力によることを理解しているのではなく，戦争はいやだという強い思いによるものと考えられる。

今回の調査では，「日本に軍備は必要」と考える子どもたちは 31.4％である。その理由として多いのは「他の国が攻めてくるかもしれない」20.9％，「世界の平和に役立つため」12.1％であった。中華人民共和国や朝鮮民主主義人民共和国の脅威をあおる報道などの影響があるものと考えられるが，なぜ軍備を肯定し，軍備が平和のために役立つという意識になるのか問い直してみる必要がある。

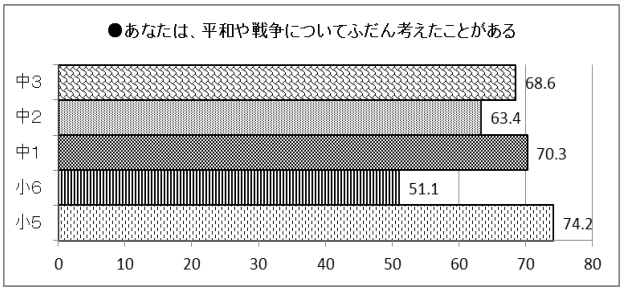
近年，集団的自衛権の行使容認や，今後，中華人民共和国や朝鮮民主主義人民共和国との緊張関係をあおる中で「軍備は必要」との意識はさらに高まることが予想される。「軍備を持たず，国際紛争を武力で解決しない」という平和主義の理念が平和な未来を創るという展望を子どもたちにもたせることができるかどうかが問われている。

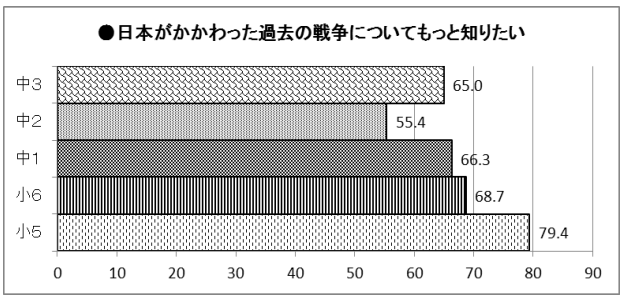
（３）平和学習の意欲について

① 「平和や戦争についてふだん考えたことがあるか。」

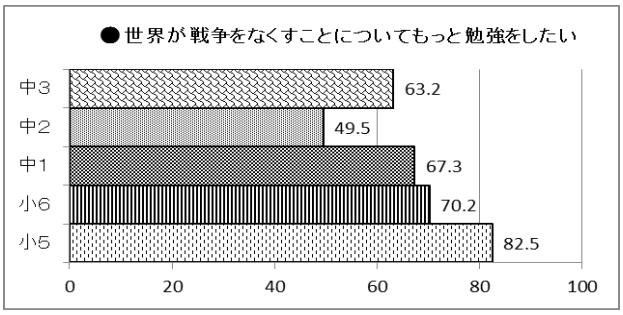
② 「日本がかかわった過去の戦争についてもっと知りたいか。」

③ 「世界が戦争をなくすことについてもっと勉強したいか。」





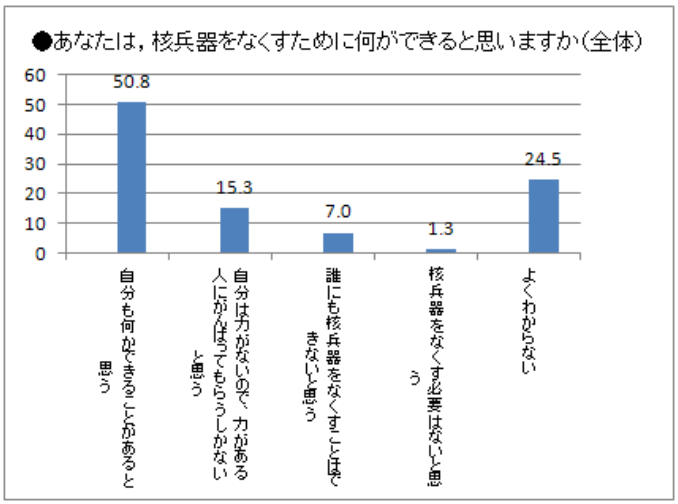
②③の質問項目はともに小学５，６年生の数値が高い。歴史学習はまだ始まっていないが，発達段階からみて，好奇心の芽生えの時期ともいえるのではないか。一方で，中学校では低下しており，教科や「総合的な学習の時間」などでの平和や戦争についての学習が不足しているのではないかと考えられる。



３つの項目ともに全体で 65%程度であり，日本の過去の戦争や世界から戦争をなくすことについて関心が高いことがわかる。日本が行った侵略の事実については，教科書の記述も少ないことから，子どもたちはもっと深く学習したいという意欲をもっており，充実させていかなければならない。

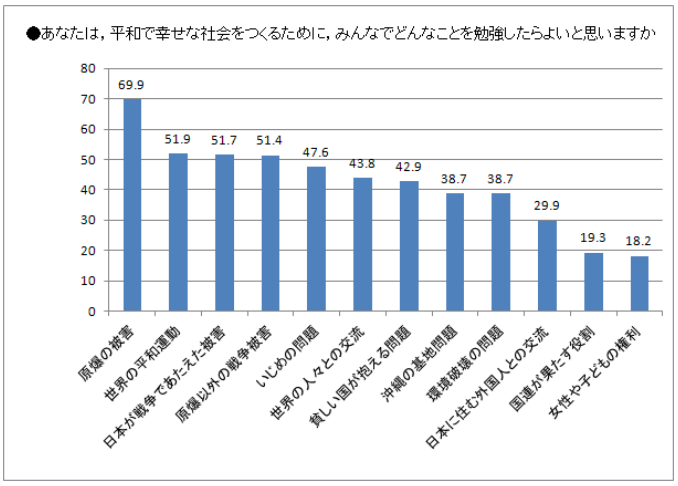
（４）平和形成への意欲について

① 核兵器をなくすために「自分も何かできることがある」と思う子どもは 50.8%である。核廃絶に対する子どもたちの積極的な姿勢をみる一方で，「誰にも核兵器をなくすことはできない」と思う子どもも学年が上がるにつれて微増している。世界の現状を知るにつれて核廃絶の困難さも感じているようだ。

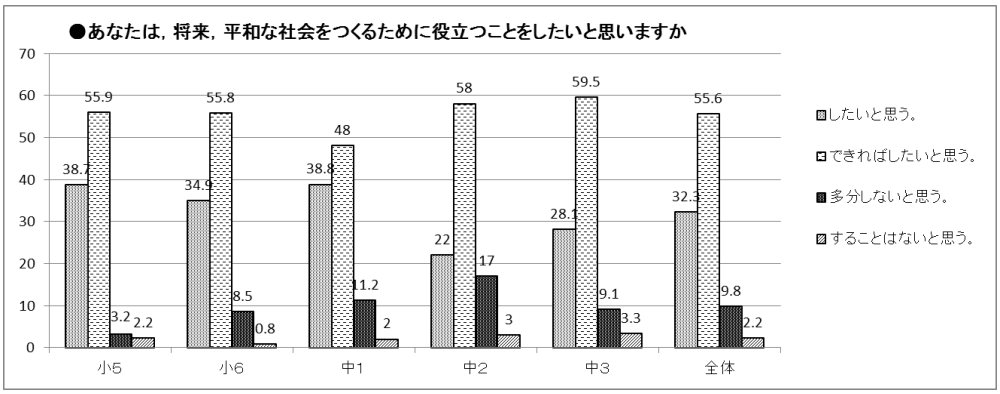


② 「平和で幸せな社会をつくるために，どんな勉強をしたらよいか」という質問に対して，「日本が戦争で与えた被害」51.7%，「原爆の被害」69.9%，「原爆以外の戦争被害」51.4%など，過去の戦争の事実について学びたいという意識は高い。一方，「沖縄の基地問題」38.7%，「国連の果たす役割」19.3%など現代の課題についての関心は低い。基地問題や国連の果たす役割が十分教えられていないのかもしれない。

「世界の平和運動」51.9%，「貧しい国が抱える問題」42.9%，「世界の人々との交流」43.8%，「いじめの問題」47.6%など，人権や貧困など構造的暴力とつなげて平和を考える意識は高い。構造的暴力を解消することが戦争をなくすことにつながることを理解しているといえる。



③ 「将来，平和な社会をつくるために役立つことをしたい」と思う子どもたちは，全体では87.9%（「したいと思う」と「できればしたいと思う」）と，とても多い。平和な社会を創るために何ができるか考え，行動化できる道筋を子どもたちに考えさせていきたい。



14. 調査結果のまとめと今後の課題

（１）調査結果

① 原爆に関する知識が低下していること

原爆の開発国，初めて落とされた国，投下された都市名，原爆投下国，２番目に投下された都市名などの正答率が下がっており，原爆に関する知識が低下している。

系統的な学習ができにくくなっていることや，戦争や原爆に関するマスコミ報道が減ってきていることなどが背景として考えられる。

② 核被害を受けた「ヒバクシャ」や原水禁大会など，核被害者問題や反核平和運動に関する知識が低下していること

原発事故や核実験の被害者など「ヒバクシャ」問題についての教職員の認識不足や，原水禁大会に参加する教職員が減少しているからではないだろうか。

③ 核兵器保有国や核兵器不拡散条約（ＮＰＴ）など，現在の核状況や核廃絶に関する知識が薄いこと

原爆投下について指導する時間に比べると，核兵器保有国や核拡散など現在の核状況や核廃絶について指導する内容も時間も少ないものと考えられる。

④ 侵略の事実や強制連行に関する知識が薄いこと

大久野島毒ガス工場についての回答（15.3%）や強制連行についての回答（27.7%）は回答率が低かった。

大久野島については「是正指導」以降，大久野島に訪れて学習する機会が減少していることが理由として考えられる。強制連行については，教科書記述が減ってきていることなどが考えられる。

また，植民地支配については教科書に記述があるものの，半数程度しか知らないと答えており，指導を充実させていくことが必要である。

⑤ 家族や先生から原爆の体験や話を聞く機会が減っていること

被爆者の高齢化や教職員の世代交代などで，家族や教職員から原爆の体験や話を聞く機会が減少しているものと思われる。

また，マスコミによる原爆や被爆者問題についての報道が減ってきていることも背景としてあるのではないだろうか。

⑥ 原爆投下については多くの児童生徒が残虐性や非人道性を感じていること

70～80%前後の児童生徒が「どんな目的であっても原爆を使うことは許せない」と感じており，被爆体験を聞いたり，平和記念資料館を見学したりして平和学習を深めているからではないかと考えられる。

⑦ 核兵器使用の可能性があるとする回答率が高いこと

「核兵器が実際に使われる可能性がある」（62.5%）とする回答率が高い。中華人民共和国や朝鮮民主主義人民共和国の脅威をあおるようなマスコミの報道などの影響が考えられる。

⑧ 平和学習や平和形成への意欲が高いこと

「日本に軍備は必要ない」（65.9%），「日本がかかわった過去の戦争についてもっと知りたい」（65%），「世界が戦争をなくすことについてもっと勉強したい」（66.5%），核兵器をなくすために「自分も何かできることがある」（50.8%），「将来，平和な社会をつくるために役立つことをしたい」（87.9%）であった。

多くの児童生徒が軍備の必要性を否定し，平和を望み，平和な社会をつくっていくために何かしたいと考えていることがうかがえる。

（２）今後の課題

今回の調査で，広島県内の小中学校の児童生徒の原爆に関する知識が低下していることが問題点とし

て明らかになった。その背景としては，

① 「是正指導」により「カリキュラムの見直し」，「組織の見直し」が行われ，平和教育を推進する組織や平和教育のカリキュラムがなくなり，系統性のない平和教育となったこと
② 「是正指導」により，教育委員会や管理職からの圧力などにより，現場での平和教育実践が萎縮していること
③ さらに，授業時間数確保が優先され，社会見学をなくしたり，平和学習の時間が削減されたりしたこと
④ 教職員の世代交代が進み，被爆教職員が学校現場から去ったことや，平和教育の推進態勢がなくなる中で，現場での平和教育実践の継承ができにくくなっていること
⑥ 教科書から戦争・原爆記述が減少していること

などが考えられる。

平和教育を阻害する外的要因は様々あるが，これを言い訳にするのではなく，児童生徒の戦争・原爆認識を深めていくために，何ができるのか，何をしていかなければならないのか，今回の調査で明らかになった問題点に対して課題を明確にし，教職員が主体的に取り組んでいく必要がある。

そのためには，教職員自身の歴史認識や戦争・原爆認識を深めていかなければならない。学校現場では，平和教育を推進してきた世代の教職員が少なくなり，「是正指導」により平和教育をほとんど受けていない若い世代の教職員が増えてきている。このような中で，教職員の認識を深めていくためには，教職員自身の学習や学校現場での研修も必要である。

平和教育を構築し，戦争・原爆体験の継承を進めていくための平和教育の課題は，

① 系統的な平和カリキュラム（学年，教科，道徳，総合，特別活動などの中で，いつ，どの単元で，どのような実践を行うのか）を作成すること
② 原爆投下を歴史の中に位置づけ，被害・加害・抵抗・差別などの実践的視点をふまえ，戦争構造をトータルに捉えさせる教育内容の創造を進めていくこと
③ 戦争・原爆体験の聞き取りや地域の歴史の教材化（大久野島，似島，空襲など）は急務であり，積極的に進めていくこと
④ 憲法学習を充実していくこと
⑤ 平和教育実践を継承していくために，これまで蓄積してきた教材資料のデータベース化も進めること
⑥ 推進態勢の構築（学校，学年，教科として平和教育実践をどのように進めるか論議する場をもつこと）を進めること
⑦ 戦争・原爆，現代的課題の原発・安保・基地問題など，平和教育に関する研修や講演会，フィールドワークなどに積極的に参加すること

などである。

このような課題を解決していくために，平研は様々な取り組みを進めてきた。

「新平和教育基準カリキュラム」「原爆投下一問一答（原爆はなぜ投下されたのか）」「原発問題をどう教えるか」など，平和教育実践のためのカリキュラムや教材資料（指導案）などを作成し，提案してきた。しかし，これらが学校現場でしっかり活用されている状況には至っていない。今後もこれらのカリキュラムや教材資料の普及活動を進めていくと同時に，若い世代の教職員も取り組めるよう**「平和教育入門編」**の作成にも取り組んでいきたいと考えている。

また，戦争・原爆体験の継承に関わる取り組みにとしては，毎年，**ヒロシマ体験平和学習**（被爆建造物写生大会や被爆電車に乗り被爆体験を聞く会，広島城～比治山～宇品の戦跡をめぐるフィールドワーク）を実施してきている。

戦争・原爆の認識が低下している現実や，憲法「改正」が視野に入ってきている今日的状況の中で，ますます平和教育のあり方が問われている。

今回の調査の中で，「日本がかかわった過去の戦争についてもっと知りたい」（65.0%），「世界から戦争をなくすことについて，もっと勉強したい」（66.5%），「将来，平和な社会をつくるために役立つことをしたい」（87.9%）など，子どもたちは，原爆の被害だけでなく，日本が行った侵略の事実を学ぶことを通して，将来，平和な社会をつくっていくために貢献したいという意欲を示しており，これをよりどころとして平和学習を充実させていきたい。そのことによって，広島から平和について発信していくちからを養っていかなければならない。

平和学習を通して，子どもたちが主体的に「命・人権・平和」について考えられるような平和学習を創造していくことが求められている。

「是正指導」により，広島の平和教育は大きく後退し，危機的状況にあったが，平研の平和教育再構築の取り組みや学校現場での粘り強い取り組みなどにより，危機的状況は脱しつつある。今後もさらに平和教育の再構築に向けて，取り組みを継続していかなければならない。

なお，より正確に児童生徒の平和意識を把握するためには，教育行政の調査も必要ではなかろうか。戦争・原爆体験の継承のためには，教職員組合，学校現場，自治体・教育委員会，被爆者団体，大学・研究機関，マスコミなど各方面の取り組みや連携が不可欠である。

（2016,3.31）

【付記】

※今回の平和意識調査の事前に，プレ調査（2010 年）を行っている。この調査の結果については，広島国際学院大学の伊藤泰郎教授が，「広島県の小中学生の平和学習の経験および戦争と平和に関する知識や意識の分析」（http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hkg/metadata/10806）にまとめられている。さらにこの論文には，過去第１回～６回までの平和意識調査の回答の変遷についてもまとめられているので参考にされたい。

平和アンケート

※「第７回平和意識調査」アンケート用紙です。

このアンケートは、みなさんが原爆や戦争についてどれくらい知っているか、また、どのように思っているかをたずねるものです。自分が知っていることや思っていることについて、正直に答えてください。テストではないので成績とは関係ありません。また、問題の中には、これからみんなで正解を見つけていかなくてはいけないものもあります。先生たちは、アンケートの結果をまとめながら、平和についてみなさんにどのように教えたらよいのか勉強したいと考えています。みなさんも、このアンケートを平和について考えるきっかけの一つにしてほしいと思います。

【アンケートの答え方】

・番号で答える質問は、あてはまる番号に〇をつけてください。
・番号を１つ選ぶ質問と、あてはまる番号全部を選ぶ質問があるので注意してください。
・答えた番号の後にカッコがあるものは、その中にも答えてください。
・名前は書かなくてもよいです。
・できれば全部答えてほしいのですが、答えたくない質問には答えなくてもかまいません。

まずあなた自身のことについて聞かせてください。

１）あなたは何年生ですか（1 つ）。

1.　小学５年生　　2.　小学６年生　　3.　中学１年生　　4.　中学２年生　　5.　中学３年生

２）あなたは男ですか、女ですか（1 つ）。

1.　男　　2.　女

３）あなたの家族や親戚（しんせき）に原爆や戦争を体験した人はいますか（1 つ）。

1.　いる　　2.　いない　　3.　わからない

４）広島市の平和記念資料館（へいわきねんしりょうかん）を見学したことがありますか（1 つ）。

1.　ある　　2.　ない

→ **あると答えた人だけに聞きます。**

4-1）誰と一緒（いっしょ）に行きましたか。あてはまるものを全て選んでください。

1.　家族や親戚（しんせき）　　2.　学校・クラス　　3.　それ以外の人

4-2）初めて行ったのはいつですか。（1 つ）。

1.　小学校に入る前　　2.　小学１年生　　3.　小学２年生　　4.　小学３年生
5.　小学４年生　　6.　小学５年生　　7.　小学６年生　　8.　中学校に入ってから

4-3）初めて行った時、どう思いましたか。あてはまるものを全て選んでください。

1.　原爆や戦争の恐ろしさがわかった　　2.　被害（ひがい）のひどさや大きさに驚いた
3.　展示が怖かった　　4.　つらい気持ちになった　　5.　その他

５）原爆投下された様子とその被害（ひがい）について学校で学習したことがありますか（1 つ）。

1.　ある　　2.　ない

→ **「ある」と答えた人だけに聞きます。**

5-1）その学習は何の時間ですか。あてはまるものを全て選んでください。

1.　道徳　　2.　社会　　3.　国語　　4.　総合的な学習の時間
5.　1～4 以外の科目　　6.　学級会(学活)　　7.　登校日

5-2）どんな教材を使って学習しましたか。あてはまるものを全て選んでください。

1.　映画　　2.　スライド　　3.　ビデオ　　4.　教科書
5.　副読本(「ひろしま」など)　　6.　先生のつくったプリント
7.　平和カレンダー　　8.　被爆証言者（ひばくしょうげんしゃ）の方のお話

5-3）上の質問の教材の中で、特に強く印象に残っているものは何ですか。
番号で答えてください（1 つ）。　　（　　）

6）広島市の平和記念公園の広島平和都市記念碑（原爆慰霊碑）をたずねたことがありますか（1 つ）。

1.　ある　　2.　ない

7）原子爆弾が投下された時の様子を聞いたことがありますか（1 つ）。

1.　ある　　2.　ない

→ 7-1）**あると答えた人だけに聞きます。**その時の様子をだれから聞きましたか。

あてはまるものを全て選んでください。

1.　家族や親戚　　2.　テレビ　　3.　ラジオ　　4.　新聞　　5.　雑誌

6.　先生　　7.　近所の人　　8.　被爆証言者　　9.　その他

8）あなたは以下の本やマンガを読んだことがありますか。あてはまるものを全て選んでください。

1.　「原爆の子」（長田新）　　2.　「原爆詩集」（峠三吉）

3.　「かわいそうなぞう」（土家由岐雄）　　4.　「はだしのゲン」（中沢啓治）

5.　「火垂るの墓」（野坂昭如）　　6.　「夕凪の街　桜の国」（こうの史代）

7.　「おこりじぞう」（山口勇子）

9）あなたは以下の歌の中に、聞いたことがあったり、歌えるものがありますか。それぞれについて○か×で答えてください。

曲名	聞いたことがある	歌える
1.　原爆を許すまじ		
2.　夾竹桃（きょうちくとう）のうた		
3.　青い空は		
4.　にのしま		
5.　折り鶴		
6.　ひろしまの有る国で		
7.　アオギリのうた		
8.　願い		

10）上の質問以外の歌で、原爆や戦争に関する歌で知っているものがあれば書いてください。

（　　）

次に、あなたが原爆や戦争についてどれくらい知っているか聞きたいと思います。

11）世界で初めて原子爆弾をつくった国はどこか知っていますか（1 つ）。

1.　知っている→国名（　　）　　2.　わからない

12）世界で初めて戦争で原子爆弾が落とされた国はどこか知っていますか（1 つ）。

1.　知っている→国名（　　）　　2.　わからない

13）世界で初めて戦争で原子爆弾が落とされた都市はどこか知っていますか（1 つ）。

1.　知っている→都市名（　　）　　2.　わからない

14）それは、いつのことでしたか（書けるところを、数字で書いてください）。

（　　）年（　　）月（　　）日（　　）時（　　）分

15）その原子爆弾を落とした国はどこか知っていますか（1 つ）。

1.　知っている→国名（　　）　　2.　わからない

16）その都市の原子爆弾による死者は、その年の終わりまで何人ぐらいになったと思いますか。一番近いと思うものを選んでください（1 つ）。

1. 約 5 万人　　2. 約 10 万人　　3. 約 15 万人　　4. 約 20 万人　　5. 約 25 万人　　6. 約 30 万人

17）世界で 2 番目に原子爆弾が落とされた都市はどこか知っていますか（1 つ）。

1.　知っている→都市名（　　）　　2.　わからない

18）それは、いつのことでしたか（書けるところを、数字で書いてください）。

（　　）年（　　）月（　　）日（　　）時（　　）分

19）日本が第二次世界大戦に負けたのはいつですか（書けるところを、数字で書いてください）。

（　　）年（　　）月（　　）日

20）以下の中から、事実として正しいと思うもの全てに〇をつけてください。

1. 日本で原爆の被害を受けた人の中には、いま日本以外の国に住んでいる人がいる。
2. 日本で原爆の被害を受けた人の中には、日本人以外の人が何万人もいる。
3. 原爆以外で放射線を浴びて被ばくした人が日本にも外国にもいる。
4. 広島県は非核宣言をしている。
5. 広島では原水爆禁止の世界大会が毎年行われている。
6. 世界には核兵器を持つ国が５つ以上ある。
7. 日本は、核兵器を「持たない」「作らない」「持ちこませない」の３つを国の方針にしている。
8. 広島県には、第二次世界大戦に負けるまでたくさんの兵器工場や軍事基地があった。
9. 日本は、第二次世界大戦に負けるまで朝鮮半島や台湾を植民地にしていた。

21）以下の言葉の中で、あなたが聞いたことがあるもの全てに〇をつけてください。

1. 南京事件	2. 強制連行	3. 731細菌部隊
4. 大久野島毒ガス工場	5. 平頂山事件	6. 従軍慰安婦
7. 第五福竜丸	8. チェルノブイリ原発事故	9. 核兵器不拡散条約（NPT）

最後に、あなたが平和や戦争についてどのように考えているのか教えてください。

22）あなたは、平和や戦争についてふだん考えたことがありますか（1つ）。

1. ある　　2. ない

23）あなたは、日本がかかわった過去の戦争について、もっとくわしく知りたいと思いますか（1つ）。

1. もっと知りたいと思う　　2. いま知っていることで十分だと思う

24）あなたは、世界から戦争をなくすことについて、もっと勉強したいと思いますか（1つ）。

1. もっと勉強したいと思う　　2. いまの勉強で十分だと思う

25）あなたは、**世界**はいま平和だと思いますか（1つ）。

1. 平和だと思う　　2. 平和だとは思わない

26）あなたは、**日本**はいま平和だと思いますか（1つ）。

1. 平和だと思う　　2. 平和だとは思わない

27）あなたは、核兵器が実際に使われる可能性はあると思いますか（1つ）。

1. 可能性はとても高いと思う。　　2. 可能性は十分あると思う。
3. 可能性は少ないと思う。　　4. 可能性はないと思う。

28）あなたは、日本国憲法第９条を知っていますか（1つ）。

１．知っている　　2. 知らない

29）将来、日本と他の国との間で戦争が起こると思いますか（1つ）。

1. 起こると思う　　2. 起こらないと思う

30）もし、日本と他の国との間で戦争が始まったら、あなたは反対しますか（1つ）。

1. どんな戦争であっても反対すると思う。
2. 日本が攻めていく戦争なら反対すると思う。
3. 戦争が始まったら反対できないので仕方なくしたがうと思う。
4. 戦争に負けるといけないので反対するのはよくないと思う。
5. 逃げたり隠れたりして自分を守ると思う。

31）あなたは、日本にいま軍備が必要だと思いますか（1 つ）。

1.　必要だと思う→質問 31-1 へ　　2.　いらないと思う→質問 31-2 へ

31-1）**上の質問で「必要だと思う」と答えた人だけに聞きます。**どうして必要だと思いますか。あてはまるものを全て選んでください。

1.　他の国が持っているから　　2.　他の国が攻めてくるかもしれないから
3.　一人前の国として当たり前だから　　4.　日本は強い国でなくてはいけないから
5.　世界の平和に役立つため
6.　その他の理由　（　　）

31-2）**上の質問で「いらないと思う」と答えた人だけに聞きます。**どうしていらないと思いますか。あてはまるものを全て選んでください。

1.　戦争は起こらないと思うから　　2.　戦争はいけないことだと思うから
3.　かえって戦争の原因になるから　　4.　平和憲法に反するから
5.　税金の無駄だと思うから
6.　その他の理由　（　　）

32）あなたは、原爆が投下されたことについてどう思いますか（1 つ）。

1.　戦争だからどんな手段が使われても仕方がなかった。
2.　戦争を終わらせるために使ったのは仕方がなかった。
3.　どんな目的であっても原爆を使うことは許せない。

33）あなたは、原爆の被害（ひがい）についてどのように感じますか（1 つ）。

1.　自分が実際に体験したことでないから、あまり実感できない。
2.　自分が体験したことではないが、被爆した人の苦しみは伝わってくる。
3.　自分にはあまり関係がないことだと思う。
4.　原爆の被害（ひがい）がどんなものかよくわからない。

34）あなたは、原爆を使った一番の目的は何だと思いますか（1 つ）。

1.　戦争の後にアメリカがソ連（現在のロシア）より優位に立つため。
2.　戦争を早く終わらせるため。
3.　原爆の威力（いりょく）を試すため。
4.　日本をにくんでいたため。

35）あなたは、核兵器をなくすために何かできると思いますか（1 つ）。

1.　自分も何かできることがあると思う。
2.　自分は力がないので、力がある人にがんばってもらうしかないと思う。
3.　誰にも核兵器をなくすことはできないと思う。
4.　核兵器をなくす必要はないと思う。
5.　よくわからない

36）あなたは、平和で幸せな社会をつくるために、みんなでどんなことを勉強したらよいと思いますか。**あてはまると思うものすべて**選んでください。

1.　日本が戦争で与えた被害（ひがい）　　2.　原爆の被害（ひがい）　　3.　原爆以外の戦争被害（ひがい）
4.　沖縄の基地問題　　5.　国連が果たす役割　　6.　世界の平和運動
7.　貧しい国が抱える問題　　8.　世界の人々との交流　　9.　日本に住む外国人との交流
10.　いじめの問題　　11.　環境破壊（かんきようはかい）の問題　　12.　女性や子どもの権利

37）あなたは、将来平和な社会をつくるために役立つことをしたいと思いますか。（1 つ）。

1.　したいと思う　　2.　できればしたいと思う
3.　たぶんしないと思う　　4.　することはないと思う

ありがとうございました。